

つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

発掘調査は眠らない

～ 染井遺跡・東京メトロ南北線駒込駅エレベーター設置に伴う発掘調査 ～



深夜の駒込駅南口付近。人通りも途絶える頃、発掘調査が始まります。



本郷通りの下から、江戸時代の道が姿をあらわしました。

「街を離れて野に山に、遺跡求めて俺たちは・・・♪」かつて大学の考古学徒たちによって、恐らくは80年代まで盛んに歌われていた「考古学^{エレジー}哀歌」の一節だが、都内では、今や郊外はおろか、市街地のビルが立ち並ぶ谷間でも、発掘調査が行なわれることは珍しくない。都市化が進んだ豊島区でも、遺跡は意外に多く残されており、江戸時代のみならず、縄文・弥生時代など、より古い時代の遺跡に出くわすこともしばしばである。

豊島区北東部をおよそ南北にかすめる本郷通りは、かつて「日光御成道」として、徳川将軍家が日光東照宮への参詣に用いた幹線道路であり、また、庶民によって江戸郊外への行楽に利用される道であった。江戸時代、この沿道に発展した駒込・伝中の植木屋は、江戸市中の人々にとっての遊興の場として栄えた。こうした痕跡が、遺跡として現在の駒込駅周辺の地下に眠っている。

今回の発掘調査地点は、JR駒込駅南口を出て

すぐ、本郷通りの車道と歩道にまたがる範囲にあたる。こうした幹線道路での発掘は、通常の土木工事と同じく、交通量の少ない夜間に行なう必要があった。人気の少ない夜9時から早朝5時までの作業。東京メトロと飛鳥建設、そして調査支援にあたった加藤建設といった方々のご協力により、2007年11月26日～翌1月28日まで、区内では珍しい夜間発掘調査が実施された。

夜9時過ぎ、警備員の方々が忙しく動き回り車道を確保、重機をはじめとした発掘機材が運び込まれる。そこから、調査区を覆う覆工板をはずし、ようやく今回の発掘区が姿を現わす。本郷通りの地下は、様々な埋設管や地下鉄工事によって、遺跡の多くが破壊されているものの、今回の調査地点に限っては、江戸時代の地下室をはじめとする遺構や、陶磁器などの遺物がしぶとく生き残っていた。中には、かつての「日光御成道」の側溝の可能性のある溝なども発見された。

発掘調査は、一部に重機といった機械力を借りるものの、ほとんどが手作業で行なわれる。遺構や遺物の発見は、調査員や発掘作業員の観察眼や経験に多くを拠っている。だが、今回は日光の射

さない夜間の発掘調査である。性能の良い投光機数台が持ち込まれたものの、視覚的に土層の微妙な変化を捉えることは難しく、指先の感覚によってしばしばこれを捉えた。こうした状況から、勢い昼間の調査よりも、さらに慎重な作業が要求された。しかし、これが逆に功を奏し、さきほど触れた地下室や溝のほか、当時の生活面を示す硬化面といった微妙な遺構も発見される要因となった。調査成果の具体的な検討はこれからだが、結果として江戸時代から太平洋戦争前後に到るまで、この土地がどのように使われて続けてきたのかを解明する、大きな手がかりを得ることができた。

調査期間が年末年始にかかっていたこともあり、未明になっても酩酊状態の人々が怪訝な視線を向けながら現場の脇を通り過ぎて行く。車道を行き交う車は昼間に較べて少なく、その8割以上はタクシーだが、そのせいか救急車やパトカーといった緊急車両が目立つ印象だった。発掘調査団や支援スタッフに何事も無かったのが、実は一番大きな成果だったように思う。

(宮川和也)

平成19年度事業報告・会計収支報告

本年度は、設立した平成19年5月23日から年度末となる9月30日までと短いですが、豊島区教育委員会と連携して行なった事業と、これに伴う会計収支をご報告いたします。発掘調査では、区内8カ所で埋蔵文化財の試掘・確認・本調査を実施いたしました。これにより、駒込一丁目遺跡や巣鴨遺跡では新しい事実が確認され、地域の歴史を考える上で重要な成果を得ることができました。報告書作成につきましては、現在整理作業を進めているため、今年度は実績なしとなっております。今年度において最も成果があったのが普及啓発事

事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲および人数	支出額(千円)
発掘調査/整理作業	埋蔵文化財包蔵地等での遺跡の発掘調査及び基礎整理作業	6月18日～9月30日	豊島区内	25人	豊島区民不特定多数	16,441
整理作業	発掘調査の記録・出土遺物等の整理作業	5月23日～9月30日	豊島区巣鴨複合施設内	11人	豊島区民不特定多数	2,595
報告書作成	実施実績なし			0人	豊島区民不特定多数	0
普及啓発	「つたのは通信」及び「調査速報」発行、遺跡見学会実施等、区民講座「レットライ考古学」の実施	随時	豊島区内	7人	豊島区民不特定多数	45
人材育成	区民講座「レットライ考古学」の実施	8月21日	旧豊島区立高田小学校	4人	区内在住小学生及び保護者5人	0

(単位：円)

科 目			
I 収入の部			
1 会費・入金収入			
入金収入	10,000		
会費収入	30,000		
賛助会費収入	50,000	90,000	
2 事業収入			
発掘調査事業	35,000,000		
整理調査事業	14,000,000		
普及啓発事業	397,000	49,397,000	
3 補助金等収入			
地方公共団体補助金収入	0		
民間助成金収入	0	0	
4 寄付金収入	0	0	
5 その他収入			
利息収入	3,000	3,000	
当期収入合計(A)			49,490,000
収入合計(A)			49,490,000
II 支出の部			
1 事業費			
(1) 発掘調査事業費			
賃金	14,000,000		
交通費	800,000		
需用費	200,000		
土工事・作業委託費	17,000,000		
測量委託費	600,000		
通信運搬費	100,000	32,700,000	
(2) 整理調査事業費			
賃金	5,000,000		
交通費	400,000		
需用費	200,000		
通信運搬費	100,000	5,700,000	
(3) 報告書作成費	3,600,000	3,600,000	
(4) 普及啓発パネル作成	400,000	400,000	
(5) 人材育成	0	0	
2 管理費			
事務局人件費	3,430,000		
事務局交通費	500,000		
社会保険等	1,500,000		
什器備品費	0		
事務所維持管理費	100,000		
消耗品費	100,000		
光熱水費	300,000		
中小企業退職金共済積立金	400,000		
車両費	420,000		
租税公課	200,000	6,950,000	
3 予備費			
予備費		80,000	
当期支出合計(B)			49,430,000
当期収支差額(A)－(B)			60,000
前期繰越収支差額(C)			63,445
次期繰越収支差額(A)－(B)＋(C)			123,445

業の一環として調査期間中に発行し、現地で配布した「調査速報」です。この速報紙は地域の人々の大きな関心を呼び、巣鴨遺跡大坂屋ビル地区では一日数百部を発行することとなりました。さらに、中学生を対象とした現地見学会も行いました。また人材育成事業といたしましては、夏休み期間に「レッツトライ考古学」を実施いたしました。小学生および保護者を対象として、雑司が谷遺跡から出土した遺物の洗浄・接合を体験学習することにより、考古学に対する興味を引き出すことができました。

平成20年度の事業も、文化財の保護・普及啓発活動等に力を入れてまいります。

書籍紹介

「どんどん掘って、遺跡はなくなるの？」
という素朴な疑問に答える 1 冊！

菊池徹夫 著『考古学の教室』 ゼロからわかる Q & A 65

時折、何気なく街で見かける発掘調査の風景。何をしているのだろうか？ ここは遺跡だったの？ どんなものが出るの？ 何で石ころをきれいに出しているの？ そう思って、発掘調査の現場で作業している調査員や研究者の方に聞いてみたのはいいけれど、専門用語を使った説明で、話の半分も理解できなかった経験はありませんか？

本書は、みなさんが考古学や発掘調査に関心を持った時にふと思うような素朴な疑問を Q & A 方式に回答していく、読みやすいスタイルになっています。内容は、著者が今まで受けもってきた市民講座や授業の参加者から受けた考古学に対する疑問・質問に答えるという、自らの実体験がベースになっています。このため疑問の種類も「なぜ、そこに遺跡があるって分かるの？」から「考古学者のふだんの生活は？」までと多岐に渡っています。このほかにも、「古さや年代はどうやってわかるの？」「発掘調査に参加するには？」など、少し知っている人向けの質問や、「小判は出るのか？」「誰のものになるの？」のように発掘調査をしている私達によく投げかけられる問いにも、ひとつひとつ丁寧に答えているので、考古学になじみのない方にも分かりやすくなっています。



菊池徹夫 『考古学の教室 ゼロからわかる Q&A65』
平凡社新書 387 2007 年刊行 定価 777 円


本書は考古学者はもとより、専攻している学生さん、考古学は面白そうだけどよくわからない、またはこれから考古学をやってみようかなと思っている方々におすすめの一冊です。

※なお、豊島区の駒込一丁目遺跡から出土した弥生土器も、技法を正確に描写した実測図の好例として掲載されています。（高木翼郎）

【編集後記】

今年は雪が良く降りますね。現場での雪は困りものですが、降るとなんとなく楽しくなってくるのが不思議。夜間現場では、霜柱誕生の瞬間も目撃。冬ですねえ。（担当小川）

編集・発行

 特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-8-9 巢鴨複合施設 201 号室
Tel・Fax 03-3915-6962 E-mail tics389@atoshima.ne.jp
ホームページアドレス：<http://www.toshima-iseki.org/>